《編集後記》

＊大江を岩野泡鳴や自然主義と結びつけることは、大江の言葉を使えば「まったくむりおし」の「関係づけ」かもしれないが、「正統性」はあると考えている。（大杉）

＊相も変わらず、ご迷惑をおかけしています。気息奄々という感じです。熱があるのか、頭痛と寒気がします。（井上）

＊修士論文執筆時期もあわせると様々な気持ちが入り交じりながら書き続けた拙文でした。それでも、うさぎの穴に入ったアリスのような気持ちだけは変わりません。最後に、お忙しい中、校正などをしてくださった皆様に感謝申し上げます。（宮澤）

＊なにかを言語化する、という営為の難しさを改めて実感した一年でした。その最後に、こうして皆様の目に触れる機会をいただけましたこと、感謝申し上げます。（山田）

＊うさぎのように穴に入ると言うより、もぐらのように穴を掘り続けてしまったように思います。自身の論文を作成するにあたり、温かい励ましとともに有益なご助言をくださった、東京都立大学大学院論樹の会のみなさまに、心より感謝申し上げます。（安藤）

論樹　第三三号
二〇二四年三月三一日発行
編集発行　論樹の会
〒一九二‐〇九〇二
東京都八王子市南大沢一‐一
東京都立大学大学院人文科学研究科　日本文学教室
論樹の会
〇四二（六七七）一一一一（内線一三四〇）
印刷　株式会社ちょこっと

ISSN 0915-504X

論　　樹

第三三号

目　　次

蛇足の文学史ことはじめ…… 安藤　史帆（1）
――性・風呂場・温泉

「絶望的な蛮勇気」をめぐって…… 大杉　重男（36）
――大江健三郎と岩野泡鳴

なぜ「少女」でなければならないのか…… 宮澤　桃子（50）
――倉橋由美子のテクストからの考察

藤枝静男『田紳有楽』に顕れる「天皇制」と「天皇」… 山田　侑奈（76）

多様で豊饒（うさんくさい）な「世界」のあり方…… 井上　乃武（92）
――『帰命寺横丁の夏』における「ファンタジー」の問題

2024 年 3 月

論樹の会

論　樹　第三三号　二〇二四年三月